平成29年度　第68回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール表彰式

平成30年 3月 3日㈯
サンセール盛岡

主　催　岩手県良書推進協議会
協　賛　岩手県学校生活協同組合
後　援　岩手県小学校長会
　　岩手県学校図書館協議会
　　岩手県ＰＴＡ連合会

式次第

一　開式のことば
二　主催者あいさつ
三　賞状並びに記念品授与
四　審査報告
五　来賓祝辞
六　作品朗読
　　宮古市立山口小学校　五年　山口　梨乃花
七　感想発表
　　宮古市立田老第三小学校　三年　佐々木　凛太
八　閉式のことば

審査員

大石善弘先生
近藤澄江先生
齋藤英明先生
畠山明美先生
藤村由美先生
田代五月先生
小山文明先生
大渕奈実先生
永井臣之介先生

平成29年度　第68回
冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール
入賞者名簿

『　』は図書名

〈最優秀賞〉

ともだちにやさしくすること　『ひみつのきもちぎんこう』
大船渡市立日頃市小学校　一年　山下春駈

がんばりやのシロイルカ　『かまってシロイルカ』
雫石町立七ツ森小学校　二年　細川栞那

なぞのたねの正体　『りすのきょうだいとふしぎなたね』
宮古市立田老第三小学校　三年　佐々木凜太

心のポケットにそうぞう力をつめこんで『雨ふる本屋とうずまき天気』
滝沢市立滝沢第二小学校　四年　泉澤音寧

動物にも人にもある大切なこと　『だれも知らない犬たちのおはなし』
宮古市立山口小学校　五年　山口梨乃花

「強い心」をもった「いい人」　『いい人ランキング』
大船渡市立日頃市小学校　六年　新沼瑠衣

〈岩手県小学校長会長賞〉

わたしのきもちつうちょう　『ひみつのきもちぎんこう』
盛岡市立高松小学校　一年　瀧田茉白

一人ぼっちの人はいない　『りすのきょうだいとふしぎなたね』
宮古市立山口小学校　三年　小野寺凛子

キャプテンの資格　『キャプテン』
滝沢市立鵜飼小学校　五年　赤坂祐生

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

ぎん色コインをためよう　『ひみつのきもちぎんこう』
盛岡市立土淵小学校　二年　吉田航

努力の大切さ　『キャプテン』
大船渡市立日頃市小学校　四年　新沼恵輔

「きっときみに届くと信じて」を読んで　『きっときみに届くと信じて』
盛岡市立仙北小学校　六年　駒林貴葉

〈岩手県ＰＴＡ連合会長賞〉

おねえちゃんって　『おねえちゃんって、ほーんとつらい！』
宮古市立田老第三小学校　二年　佐々木　都　愛

一つの夢に向かい　『キャプテン』
盛岡市立高松小学校　三年　田　中　銀次郎

自分の実力を知り、ライバル心を燃やす　『栗山魂』
盛岡市立桜城小学校　五年　高　脇　麻　央

〈優秀賞〉

一ねん生はおもしろいよ　『とのさま1ねんせい』
久慈市立宇部小学校　一年　滝　澤　啓　光

大すきシロイルカ　『かまってシロイルカ』
盛岡市立桜城小学校　二年　薄　衣　輪

じゅう医になるためにやること　『ゆれるシッポの子犬・きらら』
宮古市立山口小学校　三年　島　野　咲

シッポをいっぱいふらせたい　『ゆれるシッポの子犬・きらら』
滝沢市立滝沢第二小学校　四年　新　沼　奎　華

本当の「努力」とは　『栗山魂』
宮古市立山口小学校　五年　小野寺　彩　仁

部門別いい人ランキング　『いい人ランキング』
宮古市立崎山小学校　六年　村　上　依　咲

〈入選〉

げん気になるチョコのたね　『チョコのたね』
大船渡市立日頃市小学校　一年　木　下　優　奈

ひみつのきもちぎんこうをよんで『ひみつのきもちぎんこう』
花巻市立宮野目小学校　一年　吉　田　景　都

すてきなおねえちゃん　『おねえちゃんって、ほーんとつらい！』
一戸町立奥中山小学校　一年　猪　又　日　葵

「チョコのたね」を読んで　『チョコのたね』
盛岡市立高松小学校　二年　佐々木　柚　希

ぎん色コインをためたいな　『ひみつのきもちぎんこう』
雫石町立七ツ森小学校　二年　米　倉　ゆ　ず

森のみんなはやさしいね　『はりねずみのはりこ』
雫石町立七ツ森小学校　二年　菊　池　日　葵

親愛なる　ミルドレッドへ　『魔女学校の一年生』
宮古市立田老第三小学校　三年　舘崎百奏

ポカポカの心　『ゆれるシッポの子犬・きらら』
宮古市立崎山小学校　四年　沢田偉風

セラピー犬の魔法　『犬といっしょに。』
洋野町立種市小学校　五年　畠山大輝

私にもできること　『きっときみに届くと信じて』
大船渡市立大船渡小学校　六年　村上冴凜

努力と練習を積み重ねて　『キャプテン』
宮古市立田老第三小学校　六年　畠山瑛成

〈学校賞〉

大船渡市立日頃市小学校

〈学級賞〉

雫石町立七ッ森小学校	二年
宮古市立崎山小学校	六年一組
宮古市立田老第三小学校	一・二年
宮古市立田老第三小学校	五・六年
大船渡市立日頃市小学校	一年
大船渡市立日頃市小学校	二年
大船渡市立日頃市小学校	五年
大船渡市立日頃市小学校	六年
宮古市立山口小学校	一年一組

〈佳作〉

チョコのたねのふしぎ　『チョコのたね』
宮古市立山口小学校　一年　古川七葉

ぼくとシロイルカ　『かまってシロイルカ』
盛岡市立上田小学校　一年　土井尻旺介

おねちゃんって、ほーんとつらい　『おねえちゃんって、ほーんとつらい！』
滝沢市立篠木小学校　一年　主浜彩花

はりこのエプロンとわたしのバック　『はりねずみのはりこ』
盛岡市立本宮小学校　一年　三浦椿

「チャリーン」をためたい　『ひみつのきもちぎんこう』
宮古市立千徳小学校　二年　畠山太耀

水族館の人気ものシロイルカ　『かまってシロイルカ』
盛岡市立仁王小学校　二年　松田知也

おねえちゃんって、ほーんとつらい！　『おねえちゃんって、ほーんとつらい！』
盛岡市立桜城小学校　二年　山田結心

はりこのせ中　『はりねずみのはりこ』
洋野町立中野小学校　二年　粒來夏帆

自分は自分　『モンスター・ホテルでそっくりさん』
宮古市立山口小学校　二年　小野寺朝妃

タネットから学んだやり通す心　『ピトウスの動物園』
大船渡市立大船渡小学校　三年　山口諒介

この本からぼくが学んだこと　『すすめ！トリケラトプス』
大船渡市立日頃市小学校　三年　新沼慎一郎

不思議なたねの正体　『りすのきょうだいとふしぎなたね』
宮古市立山口小学校　四年　川戸綾乃

よかったさがしから　『いい人ランキング』
宮古市立崎山小学校　五年　北村岳土

笑顔になる時間、犬といっしょに　『犬といっしょに。』
宮古市立山口小学校　五年　木村陽菜

ランキングは必要ない　『いい人ランキング』
盛岡市立厨川小学校　六年　大橋美空

誰もが持つ魔法とは　『キキとジジ　魔女の宅急便』
宮古市立田老第三小学校　六年　畠山芽依

わたしには何ができる　『キャプテン』
大船渡市立日頃市小学校　六年　新沼愛梨

一年　最優秀賞

ともだちにやさしくすること

大船渡市立日頃市小学校　一年
やました　はるく

ぼくが、この本をえらんだわけは、ひみつのきもちぎんこうって、どんなぎんこうだろうとおもったからです。どんなしくみになっているのかしりたいなとおもいました。

もし、ほんとうにひみつのきもちぎんこうがあったら、ぼくもいってみたいです。ぼくのつうちょうには、くろコインがなんこたまっているのか、きいてみたいです。そして、ぎんコインもなんこたまっているかきいてみたいです。このぎんこうがほんとうにあったらいいなとおもいました。

ぼくがこころにのこったところは、ゆうたくんのくろコインが九十九こたまってしまったところです。ゆうたくんは、あと一こでいいこころがなくなりそうだとばんとうさんにいわれてしまいます。もし、ぼくがゆうたくんだったら、ドキドキしてしまうとおもいます。それをきいたあとに、ゆうたくんがぎんコインをためるためにがんばっていることろがいいなとおもいました。

ぼくも、ほんとうはやさしくしていたいのに、いじめちゃうことがあります。だから、ぼくのつうちょうにもくろコインがたまっているとおもいます。

もし、くろコインがたまっていたら、ぼくもゆうたくんみたいにいいことをしてくろコインをへらしたいです。ぎんコインをためるためにいいことをたくさんしたいとおもいます。たとえば、おもいにもつをはこぶのをてつだってあげたいです。あとは、ともだちにものをかしてあげたり、こまっているともだちをてつだってあげたりしたいです。

ぼくが、この本をよんでたいせつだなとおもうことは、ともだちにやさしくしてあげることです。ともだちにやさしくしてあげて、くろコインをへらすことがいいなとおもいました。これからも、ともだちやかぞくにやさしくしていきたいです。

（図書名『ひみつのきもちぎんこう』）

〈講　評〉

「もし、本当にひみつのきもちぎんこうがあったら」「もし、ぼくがゆうたくんだったら」と、はるくさんは、お話のゆうたさんといっしょになって、黒コインにドキドキしたり、ぎんコインをためる方法を考えたりしながらお話を読んだのですね。お話の中のゆうたさんは、黒コインをへらすことができました。はるくさんも、友だちにやさしくして、きもちぎんこうのつうちょうに、ぎんコインをたくさんためてくださいね。

二年　最優秀賞

がんばりやのシロイルカ

平石町立七ツ森小学校　二年
細川栞那

わたしは、水ぞくかんが大すきです。なぜかというと、かわいい海の生きものがたくさんいて、たのしそうにおよいでいるからです。イルカショーもとてもすきです。イルカが、しいくいんさんをのせて、およいだときは、どきどきして、たのしかったです。見おわったとき、どうして、こんなにしいくいんさんとイルカがなかよしなのかなとふしぎでたまりませんでした。でも、このシロイルカの話を読んで、そのひみつが分かりました。

一つ目は、しいくいんさんが人間にするように、一生けんめいシロイルカのせわをしているということです。毎日のけんこうチェックはかかせません。体温をはかったり、あちこち大きさをはかったり。そして、びっくりしたことは、目ぐすりまで、さしてあげるということです。しいくいんさんは、おかあさんみたいです。だから、シロイルカたちも、しいくいんさんを家ぞくと思って、なかよしなのかなと思いました。

二つ目は、シロイルカもがんばりやだということです。トレーニングでは、シロイルカのことをお客さんに知ってもらうために、ボールやわっかなどをつかって、あそびながらとくぎをひろうします。なんども、しっぱいしても、れんしゅうをするシロイルカは、どりょくをしていると思います。がんばったごほうびに、しいくいんさんから、魚をもらってよろこぶシロイルカはとてもかわいいです。

しいくいんさんもシロイルカも、毎日、がんばっていることがよく分かりました。わたしは、金魚を家でかっています。正じきに言うと、おせわをしたくないときもありました。でも、このしいくいんさんのように家ぞくだと思って、せわをしなければいけません。

また、水ぞくかんに行って、海の生きものたちに会いたいです。つぎは、しいくいんさんに話を聞いてみたいです。

（図書名『かまってシロイルカ』）

〈講　評〉

水族館が大好きな栞那さん。かわいいイルカと飼育員さんのショーは、とてもわくわくしますね。栞那さんは、この本を読んで、シロイルカと飼育員さんがなかよしなひみつを見つけることができました。飼育員さんもシロイルカも、毎日がんばっている、それに、おたがい相手を家族だと思っているのですね。そのことが分かった栞那さんもきっと、飼育員さんのようになれると思います。また、いつか水族館でかわいい生き物たちに会えるといいですね。

三年　最優秀賞

なぞのたねの正体

宮古市立田老第三小学校　三年
佐々木（ささき）　りん太（た）

ぼくはこの本を読み終わった後、あたたかい気持ちになった。ぼくの家族みたいだって思ったから。お父さんとお母さんに心からおれいを言いたい気持ちになった。なぜって、このお話の「やさしい雨」がお父さんやお母さんにそっくりだったら。雨は大地をうるおして、木や草花を育て、森をゆたかにしてくれる。自然の生きものすべてのいのちを生んでそだててくれるもとになるもの。雨はしとしととやさしくなぐさめてくれたり、いっしょにかなしんでくれたり。ぼくを生んでくれて、いつも見方になってくれるお母さんみたい。雨はたまに強くふるときだってある。いつも強くて、時にはしかってくれるお父さんみたい。

それから、一生けんめいに「なぞのたね」について調べてくれたドン君とグリちゃん。きっとぼくなら、たねだって思うものを見つけたとしたら、とりあえず植えてみるような気がする。でも、よく考えてみたら、そのたねに合う育て方があるはず。そのためにはドン君、グリちゃんのように図かんできちんと調べてからじゃないといけないんだって思った。それだけ二人はなぞのたねのいのちを大切にしたいって考えているんだって思った。二人のことをこんなふうに考えると、ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんににている。ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、ぼくたちのことをいつも考えてくれて、あれこれ一生けんめいに世話をしてくれる。

そして、なぞのたねはぼくたち。なぜ「ぼくたち」なのかというと、ぼくは双子だから。ぼくたちは「やさしい雨」の両親がいることでここに生まれ、やさしい雨の力をもらいながら、ドン君、グリちゃんと言えるおじいちゃんとおばあちゃんのやさしさのえいよう分をもらって心も体も大きくなってきた。ぼくたちを大きくしてくれるのはそれだけじゃない。ひみつの森にはドン君たちを助けてくれる森のなかまたいちがいる。それは、ぼくらのおじさんやおばさん、近所の人たちかな。時々、おじいちゃん、おばあちゃんのそうだん相手になっていることがあるみたいだから。

たねをよりよく育ててくれるのは、まだほかにもある。ひみつの森にあるたくさんの木は、秋には葉をおとしてふよう土の元になる。今のぼくたちにとって、ひみつの森のたくさんの木々は学校の友だち。友だちと勉強したり、遊んだりすることで、ぼくの心にたくさんの色んなふよう土と言えるものができる。それをえいようにしながら、ぼくはより大きく育つことができるんだ。

ぼくは、この本を通じてとてもすてきなことに気づくことができた。ぼくは一つぶのたねとして、これからどんな実をつけられるかは分からない。でも、ドン君とぐりちゃんが育てたみたいな黄金色の実をそだてられるよう、みんなの力をかりながらがんばりたい。

（図書名『りすのきょうだいとふしぎなたね』）

〈講　評〉

お話の中に登場する人物や「やさしい雨」を、自分や周りの人々と結びつけた読み方に凛太さんらしい感性が表れています。

それぞれが結びつく理由が書かれているところには、凛太さんを優しく見守り育ててくれる家族や周りの人への感謝の気持ちが表れています。一粒のたねとして黄金色の実を育てたいという文から、自分自身を成長させたいという願いが伝わってきます。心を働かせて読んでいることに感心させられる文章です。

四年　最優秀賞

心のポケットにそうぞう力をつめこんで

滝沢市立滝沢第二小学校　四年
泉澤音寧

私は、雨ふる本屋のシリーズが大好きです。問題をかいけつしながらぼうけんするお話で、登場人物の会話がおもしろく、物語にひきこまれていく感じがするからです。前に読んだ『雨ふる本屋』では、ほっぽり森でおきるい変をルウ子とホシ丸くんがぼうけんしながらかいけつしていきました。『雨ふる本屋の雨ふらし』では本屋にせまったききをかいけつしたルウ子は物語を書く決心をしました。やっぱり一人よりも協力しながら行動するとゆう気が出て何でもできるんだなと思いながら読んだことが忘れられません。

主人公のルウ子と妹のサラは私たち姉妹とにています。ルウ子は、やさしいお姉さんだけれどいじっぱりでがん固、時々妹に意地悪をしてしまいます。ちょっぴり意地悪するのが私と同じです。妹のサラは、わがままで言うことを聞かないあまえんぼう。わがままでおしゃべりなところがにています。だから、ルウ子を見ていると同じ姉さんとしておうえんしたい気持ちになります。

ある日、サラは、わがままをして家を飛びだしてしまいます。ルウ子は、サラを追いかけて行くとまたまたあの不思議な本屋にみちびかれていってしまいました。そして、二人のぼうけんが始まります。私は、ぼうけんが始まると、ワクワクどきどきします。この先どうなるのか、二人は「ゆめの力」をどう使いながらぼうけんしていくのか、とても楽しみになりました。

サラは、鳥のおひめ様と同じかさを持っていたことで鳥のおひめ様と感ちがいされてしまいました。そこで、妹のルウ子と自分のために、「ゆめの力」をつかってにげだします。あまえんぼうだったサラがしっかり者のサラに成長していくのが、すごいなと思いました。

ルウ子は、サラと分かれて一人で問題をかいけつしてくやっぱりしっかり者のお姉ちゃんだと思いました。そんな二人を見ていると、私も妹と一っしょにぼうけんしてみたい気持ちになります。また、自分ではかいけつできないことを妹や友だちと協力しながらそうぞうし、協力すると、今まで以上に何でもできる気がします。

ゆめの力は、そうぞうする力です。雨ふる本屋の世界では、そうぞうしたことがそのまま現実になります。物語の世界を楽しむ力です。その力を知って、フルホン氏が、

「われわれは、生きるためにこそ本を読むとだ。われわれの生命力のみなもとは物語と直結している。」

と、言った言葉にとても共感できました。歴史や、図かん、小説、絵本など、生きていくのにためになる本や毎日の楽しみになる本がたくさんあります。私は本が大好きで色々な本を読んでいます。だから、ブンリルーのように読み終わった本を心のポケットに大事に入れて読み続けていきたいです。

（図書名『雨ふる本屋とうずまき天気』）

〈講　評〉

雨ふる本屋のシリーズが大好きな音寧さん。シリーズ二冊の読書経験をもとに、主人公との距離を締め、お話の世界にすうっと入っていったことが伝わってきます。主人公と一緒に冒険を楽しむ中で、ルウ子に自分を重ねたり、サラの成長を感じ取ったりしましたね。

読書の楽しさや素晴らしさを実感し、読書への思いをさらに強くした音寧さんの心のポケットは、これからさらに豊かに大きくふくらんでいくことでしょう。

五年　最優秀賞

動物にも人にもある大切なこと

宮古市立山口小学校　五年
山口　梨乃花

読んでいる自分が楽しくなる不思議な話がたくさんありました。メイビスは、毎日犬たちと過ごしているから、自分のことも犬と思っています。だけど、本当は、ヤギだというところが何かおかしくて笑ってしまいました。

私が見つけた、犬たちの良さは、ジーナを救出するときや、バスターじいさんの話などのときに、犬同士で協力をしていたところです。物語の中だけのことかもしれませんが、現実の犬にも協力があることを信じてみたいです。犬たちがピンチになりそうなときに、協力しているところを読みながら、私もみんなと協力して成功した日があったことを思い出しました。自然教室の登山のとき、すごく疲れて大変でした。だけど、歌を歌ったり、大声で呼びかけたりして楽しく登り切ることができました。犬たちのようなピンチになりそうなときに協力するのとは少しちがっているけど、やっぱり、仲間を大切にして協力することは大事だと思いました。そして、ふだんの生活は、いろいろな仲間のおかげだと思うようにしたいです。

最も気に入った場面は、すばらしき仲間のバーニーが最後に半分のソーセージを食べたというところです。

はじめに、ソーセージをまるごと一本食べたところで、バーニーの魔法だとあったけれど、たまたま誰かがボウルにソーセージを入れたんじゃないかと思いました。けれど、トラックが坂をのぼり、バーニーが立って、三度体をゆすると、家の角を曲がったところにソーセージがありました。私は、二度も同じことをするだけで、魔法が使えちゃったのかなと思います。でも、それがバーニーにとって良かったことです。

私は、この本を読み終えたあと、訳者のさくまゆみこさんのあとがきも読んでおどろいたことがあります。それは、「オーストラリアで犬がにげ出さないようにくさりにつないでいると罰せられる」ということです。確かに、私もこの本を読んでいるとき、「犬が自由に外に出てもいいのかな」と思いました。でも、オーストラリアでは、動物に対する保護意識が強いそうです。オーストラリアの人たちは、動物も人のように自由があってもいいという考えでこのようにしたと思います。

私は、いつも動物に近づくとこわいと思ってしまうけど、いつか慣れればいいなと思います。

この本で一番大切なところは、仲間を大切にし、仲間と協力することだと思います。理由は、このことを考えていくうちに私もみんなもきっとできることだと思ったからです。このことを学びました。これからは、メイビスやスクラッフィたちのように、仲間である家族や友達を大切に思いながら、過ごしていける毎日を送っていきたいです。

（図書名『だれも知らない犬たちのおはなし』）

〈講　評〉

犬同士で協力する犬たちの良さを見つけ、自分が協力して成功した日を思い出し、あらためて仲間を大切にして協力することの大事さ、普段の生活は、仲間のおかげだと気づいたことは素晴らしいです。

この本を読み終えたあとに読んだ「あとがき」の感想も含め、しっかりまとめ、学んだことを生かしていこうという意識が伝わってきました。

字も丁寧で美しく、人柄が伝わってきます。

六年　最優秀賞

「強い心」をもった「いい人」

大船渡市立日頃市小学校　六年
新沼（にいぬま）　瑠衣（るい）

「いい人でいれば、安全だと思っていた」本の帯に書かれていたこの文を読んで私は内心どきっとした。「いい人」のどこが悪いのだろう。私はいつも「いい人」を目指して努力してきた。友達の言ったことをすぐ否定しないようにしたり、友達の考えに合わせたりしてきた。だからこの本の主人公、桃に親近感をもった。

桃は自分のお母さんのようになるためにいろんなことに気をつけていた。しかし、沙也子と知奈津が考えた「いい人ランキング」で桃が選ばれると桃の周りは少しずつ変わっていく。

「いい人だからアイス買ってきて。」

「いい人だから教室のかぎを閉めてきて。」

とお願いされるようになっていったのだ。いくらいい人だからといっても、このお願いは、少しおかしいと私も感じた。桃が言うことを聞くようになるとお願いはさらにエスカレートしていき、ついにはいじめへとつながっていってしまう。

何かおかしいと思っているけれど何もできずに苦しむ桃。そんな桃を見ているうちに私もとても悲しくなった。人はどうしていじめをするのだろう。しかしこの本を読むと、いじめはほんのすこしのねたみやしっとから生まれるものなのだと感じる。そして、私もいじめをしてしまっていたかもしれないと思った。

私は今日頃市小学校に通っているが、クラスのほとんどの人は、日頃市保育園出身だ。その中で私は一人違う保育園から日頃市小学校に入学した。友達もいなくて、不安やあせりを周りにまき散らしていた。小学校に入学して新しくできた友達に対してもそうだった。しかしそのような態度をとるうちに少しずつ友達に嫌われていった。このままじゃだめだと思ったけれど、どうしていいか分からず、ずっと悩んでいた。悩んでいたときの桃の気持ちと正に一緒だ。私は、その気持を母に話してみることにした。母は、

「自分の意見をおしつけるのではなく、人の意見に耳を傾けることも大切だよ。」

と私に話してくれた。その言葉は、今でもずっと私の心の中に残っている。私は、母からもらったアドバイスを実行に移してみた。すると、次第に人とうまく話せるようになり、友達も増えていった。そして今では楽しく学校生活を送っている。

私がこの「いい人ランキング」の本を読んで感じたこと。それは、

「いい人だけではだめだ。」

ということだ。人と仲良くしていくためには、時にいい人になることも必要かもしれない。しかし、それだけではなく、自分の意見をしっかりともち、さらに相手の意見も尊重できる「強い心」をもつことが大切なのだと思う。

「強い心」をもった「いい人」に私はなりたい。

（図書名『いい人ランキング』）

〈講　評〉

主人公桃に共感し、人はどうしていじめをするのだろうと考え、ねたみやしっとから生まれるものだと感じたことは、大きな収穫でした。

自分の体験を生かし、自分の意見をしっかり持ち、相手の意見も尊重できる「強い心」を持った「いい人」になりたいと決意を述べています。文章構成（段落など）も見事です。字も丁寧です。読み取ったことを生かそうとする気持ちがひしひしと伝わってきます。

岩手県小学校長会長賞（低学年）

わたしのきもちつうちょう

盛岡市立高松小学校　一年
たき田　ましろ

わたしはふゆ休みに、かぞくみんなで「ひみつのきもちぎんこうごっこ」をしました。この本をよんで、「わたしのきもちつうちょうはどうなっているんだろう。」と、すこしこわくなったからです。この本には、人のきもちをあずかるきもちつうちょう」がでてきます。そのつうちょうは、いじわる、ふしんせつみたいな、その人がほんとうにもっているきもちとちがう、うそきもちをあずかったときに、ジャリーンという音がして、くろコインがたまります。その人がしたいほんまのきもちの、ゆうきやチャレンジをあずかると、チャリーンという音がして、ぎんいろコインがたまります。

かぞくみんなで本をよんで、いよいよ、ぎんこうごっこをはじめました。ルールは、だれかのうそきもちを見つけたらジャリーンということ、ほんまきもちを見つけたら、チャリーンといっておしえてあげることです。わたしはおねえちゃんとけんかをしたときに、おかあさんにジャリーンといわれました。どうしてかわからなかったのできいてみたら、

「じぶんからあやまれないから、いくじなしコインがたまったんだよ。」

と、いわれました。はずかしかったけど、おねえちゃんにあやまりました。そうしたらチャリーンときれいな音がしました。本に出てきたゆうたくんとここみちゃんのきもちがすごくわかりました。

ゆうたくんは、いじわるだったけど、やさしくなりました。ここみちゃんはよわむしだったけど、がんばりやさんになりました。「わたしのぎんいろコインはなんだろう。」とおもって、かぞくにきいてみました。

「どりょくのコインがいっぱいあるよ。」

と、おしえてもらいました。そしたら、キラキラのぎんいろコインが見えました。すごくうれしかったし、もっとふやしたいです。

（図書名『ひみつのきもちぎんこう』）

〈講　評〉

なるほど、「ひみつのきもちぎんこうごっこ」をやってみたら、自分のつうちょうがどうなっているか知ることができますね。

茉白さんは、おねえさんとけんかした時、黒コインがたまってしまいました。でも、あやまりたい、なかよくしたいという「ほんまきもち」を出したら、ぎんコインがたまりましたね。家族の人に、努力のぎんコインがたくさんたまっていることも教えてもらいましたね。これからも、時々、自分のきもちつうちょうに、どんなぎんコインがたまっているのか、のぞいてみてください。

岩手県小学校長会長賞（中学年）

一人ぼっちの人はいない

宮古市立山口小学校　三年
小野寺（おのでら）　凛（りん）子（こ）

この本は、二ひきのリスがなくしてしまったブローチをさがしているときに、めずらしいたねを見つけたことをきっかけに、「ひとりぼっちの木」という物語に出会うお話です。二ひきのリスは、「ひとりぼっちの木」という本を読んで、「一人ぼっちの人はいない」ということに気づくことができました。

わたしが一番心にのこった場面は、ひとりぼっちの木にことりさんが

「あなたはひとりじゃないよ。」

と言ってあげたところです。ことりさんのこの言葉によって木さんが

「ぼくはずっと一人だと思っていたけれど、本当はすぐ近くに友だちがいたんだ。」

ということに気づくことができたからです。始めに「ひとりぼっちの木」の話を読んだ時には、木さんはずっと一人なのかなと思ったけど、まわりには、友だちがたくさんいるということを知りました。わたしはこの場面を読んで、わたしもことりさんのように

「あなたはひとりじゃないよ。」

と言いたいなあと思いました。この時、二ひきのリスもわたしと同じ気持ちだったんじゃないかなと思いました。

わたしには、ひとりぼっちの木と同じようにひとりぼっちにされたけいけんがあります。それは、わたしがようち園の時のことです。おにごっこで友だちに

「りんこちゃんはつかまらないからいれてあげない。」

と一人ぼっちにされたことがありました。その時は、とてもかなしい気持ちになりました。でも、ほかの友だちが、

「さっき言われたことは気にしないで、わたしたちといっしょに遊ぼう。」

と声をかけてくれました。その時に、わたしは、さいしょは一人ぼっちにされたと思ったけれど、本当は、たくさんの友だちがいたことに気づきました。声をかけてくれた子の中の一人は、よく一人でいることが多い子でした。その子がわたしに声をかけて元気づけてくれたことが、とてもうれしかったです。だから一人ぼっちのさみしさは、とてもよくわかるなと思いました。もしもわたしが木さんだったら、みんなに

「友だちになろう。」

というと思います。そうすればどんどん友だちがふえていくんじゃないかなと思います。

私はこの本から、「ひとりの人はいない」ということを学びました。もしも一人の人がいたら、ことりさんのようにやさしい言葉をかけてあげたいなと思いました。自分の身のまわりにいる家族や友だちなど、人とのつながりを大事にしてこれから生活していきたいと思いました。自分からどんどん声をかけて、友だちをふやしていきたいです。

（図書名『りすのきょうだいとふしぎなたね』）

〈講　評〉

本の中に出てくる物語に強く心をひかれ感想を書くことができました。一つのことについて深くとらえ、考えをまとめているところが素晴らしいです。自分の経験と重ね合わせ、ひとりぼっちの木に共感することができたから深い感想につながったのだと思います。

凛子さんの心は周りの人にも向けられるようになりました。「つながり」を大事に生活していくという思いを、これからもずっともち続けていってほしいと思います。

岩手県小学校長会長賞（高学年）

キャプテンの資格

滝沢市立鵜飼小学校　五年
赤坂祐生

キャプテンは一番上手くて、一番強くなきゃいけない。ぼくは、そんなふうに思っていた。

主人公のタカオは、野球の名門校、青葉学院の二軍の補欠だった。しかし、ノビノビと野球がしたいと思い、中二の五月中旬という、中と半ぱな時期にすみ谷二中に転校してきた。ぼくだったら、せっかく入った名門校から無名の弱小中学への転校なんて絶対にしない。

すぐに野球部に入部したタカオだが、予想通りチームメイトから、勝手に青葉のレギュラーだとかんちがいされてしまう。タカオは否定できずにいた。

「いえ、ちがいます。ぼくは二軍の補欠です。」とみんなの前で言えるか、そんな勇気はぼくにも無い。タカオも同じだった。その場はなんとか切りぬけたタカオだったが、軽めの練習でついにタカオの実力がバレてしまった。みんなの期待にタカオの実力がともなっていないという事実。どうすれば良いのか、父と考えた末に出したタカオの答えは、青葉のレギュラー選手として通用する位上手くなるということだった。具体的に何をするか。練習だ。でもタカオはいくら練習したって、出来るわけないだろうと思っていた。しかし父は、

「やりもしないうちに言いわけ言うな。」

「誰でも失敗ぐらいする。でもそこから逃げちゃだめだ。」

と、タカオをしかった。ぼくもタカオと同じで、たまにやる前に言いわけをしてしまう事がある。どうせやったってダメに決まってると自分で勝手に結果をだしてしまう。

そして、タカオの自分の見栄から始まったみんなのご解を真実に変える戦いが始まった。父との秘密の特訓だ。

すみ谷二中は三年生から次のキャプテンが指命される。キャプテンは…タカオ。予想もしない事だった。それはタカオも同じで、キャプテンに選んだ理由を聞いた。すると「キャプテンは強ければ良いわけじゃない。下手でもコツコツ努力を続ける姿勢が評価されたんだ。」と答えた。一生けん命な気持ちが伝わったという事だと思った。

キャプテンは完ぺきか？タカオを見ているとそれはちがうと思う。問題が出てそのたびになやんで一つずつ解決していかなければならない。また、自分と仲がいいからレギュラーにするのではなく、チーム全体を見て、時にきびしく、公平に判断しなくてはならない。そして、キャプテンになるという事は誰かの目標になる事でもある、その事をタカオは教えてくれた。

ぼくは、今までは、練習や努力を続けるのが苦手な方だったけれど、これからは、やる前から言いわけせずにタカオのようにコツコツ努力を続けるようにして、いつかはみんなと同じように、勝ったら喜び、負けたらいっしょに悲しむ、そんな誰かのキャプテンになりたい。

（図書名『キャプテン』）

〈講　評〉

主人公のタカオに共感しながら、キャプテンの資格について考え、今までのキャプテンのイメージが変わり、学んだことを今後に生かそうとする気持ちは立派です。

「キャプテンになるという事は、誰かの目標になることでもある」この言葉を読み落とさず感想に取り入れたのは、考えながら読み、考えながら書いている証拠と受け止めました。

内容を凝縮した題名「キャプテンの資格」に感心しました。

岩手県学校図書館協議会長賞（低学年）

ぎん色コインをためよう

盛岡市立土淵小学校　二年
吉田　航

この本に出てくるゆうたは、くつをはきかえるのに時間がかかっていたりくくんの頭をたたいたり、ここみちゃんがおとした本をけとばしたりして、だめな人だなあと思いました。

気もちぎん行から手紙がきたとき、ゆうたは地図をたよりに一人でぎん行に行きました。ゆうたはゆう気があってすごいなと思いました。よっぽどジャリーンという音が気になっていたのかもしれません。

ゆうたのたん当のばん頭さんは、ゆうたの気もち通ちょうには、いじわるコインとふ親切コインと自分かっ手コインがたまっていて、あと一つの百こ目のコインがふえたらゆうたのいい心が空っぽになると言いました。ゆうたからいい心がなくなって、すごくいじわるな人になってみんながゆうたをきらいになるのかと考えたら、ぼくもゆうたのことが心ぱいになりました。

つぎの日、こまっているここみちゃんに声をかけられないままゆうたが気もちぎん行につくと、ジャリーンと音が聞こえました。ゆうたの黒コインだったらどうなるのだろうと思ってドキドキしました。でもそれは、ここみちゃんの弱虫の黒コインでした。ばん頭さんが見せてくれたここみちゃんの通ちょうには、ほんま気もちのぎん色コインがピカピカしていました。ゆうたは、本当はしたいのにできなかったり思っているのに言えなかったりするうそ気もちが黒コインになってたまっていくこと、ぎん色コインはたまればたまるほど自分のいい心がますます大きくなることに気づきました。

ゆうたは、こまっている人をたすけたりやさしく声をかけたりするようになりました。ぼくもチャレンジやゆう気、ど力のぎん色コインがふえるように、いいことがたくさんできる人になりたいです。

（図書名『ひみつのきもちぎんこう』）

〈講　評〉

ゆうたの黒コインが百こたまったら、ゆうたのいい心はどうなるのだろう。航さんが、ゆうたのことを心配しながらドキドキしてお話を読んだことが伝わってきました。お話の中のゆうたくんは、うその気もちで行動すると、黒コインがたまってしまうことが分かって、「ほんま気もち」で行動する勇気をもつことができましたね。航さんも、ゆうたくんに負けないように、チャレンジや勇気、努力のぎんコインをじぶんつうちょうにためていってくださいね。

岩手県学校図書館協議会長賞（中学年）

努力の大切さ

大船渡市立日頃市小学校　四年
新沼恵輔

「何だかはらが立ってきた。もちろん、自分にだ。おれは、谷口さんみたいな努力を一度もしたことがなかった。」これは、みんなが知らない所で、自主練習をしている谷口君のすがたを見て、丸井が自分をふり返り、これまでの自分の事におこっている場面だ。ぼくは、この場面が一番心に残っている。丸井は、野球が大好きな二年生。でも、レギュラーの中で一番下手くそで、一年生のイガラシにセカンドのポジションをとられてしまう。野球をすることをあきらめ、たい部とどけを出しに谷口君の所へ行き、自主練習をしている事を知った。丸井は、グローブをみがいて道具を大切にすることだけでなく、かげの努力をもっとしなければならないことに気づいたのだと、ぼくは思った。丸井は、たい部とどけを出すことをやめ、イガラシとかせんじきで練習を始めた。この谷口君の努力を知ったことで、みんなの気持ちが変わっていった。一人ひとりの努力が一つとなり、弱小チームのすみ谷二中が、全国大会ゆう勝をなしとげた青葉学院に一点差までつめよるチームとなった。

ぼくも、三年生から始めた野球が大好きだ。いっしょに入部した友達が、先にレギュラーに選ばれ、とてもくやしかったけれど、ぼくは、バットを運ぶバットボーイやボールをみがくボールボーイも一生けん命やった。四年生になり、六年生が引たいした後、レフトを守ることになった。レギュラーに選ばれて、本当にうれしかった。でも、試合に出てみると、点数を入れたい場面で打てずにくやしい思いをした。特に、くやしかったのは、最終回に、レフト線に飛んできた打球に、とびついたけどキャッチできず、負け試合となったことだ。この事は、何かあるたびに思い出してしまう、ぼくの苦い思い出となった。ぼくは、レギュラーをとったことに満足していてはダメだということに気づき、練習をがんばった。少し早起きして、すぶりや、ボールを投げて的に当てる自主練習も始めた。すると、あるとき試合で、レフトゴロをホームへ投げ、ランナーをさしアウトにすることができた。ベンチにもどってくると、みんながハイタッチでむかえてくれた。ぼくは、とてもうれしかった。この試合は勝利を手にした。ぼくたちのチームは、二日間の試合を勝ちぬき、ゆう勝するチームにまでなった。これは、みんながそれぞれ練習し、一つとなったからだと思う。

丸井も、ぼくも、レギュラーをとれなかったことやプレーしてもうまくできなかったことから、もっと努力することが必要だということに気づいた。また、努力することで、少しずつ、かい決できることも体験した。ぼくの次の目標は、バッティングの上達だ。いつでも、次なる目標を立て大好きな野球を続けていきたい。

（図書名『キャプテン』）

〈講　評〉

登場人物の気持ちを想像したり、行動に共感したりしながら読むことができました。野球に取り組む中で、うれしさやくやしさを何度も経験している恵輔さんだからこそ、人物に寄り添うことができたのだと思います。

また、読むことを通して、自分自身を見つめ直したり、野球に対する思いを確かめたりすることができました。野球を続けることへの強い決意に、恵輔さんの心の成長が感じられる感想文です。

岩手県学校図書館協議会長賞（高学年）

「きっときみに届くと信じて」を読んで

盛岡市立仙北小学校　六年
駒林貴葉

最近、いじめについて考える機会がよくある。いじめる側が百パーセント悪いのは、言うまでもなく明らかである。が、晴香みたいにいじめる側も悩みを抱えて生きていることもあるのだと知った。晴香は晴香で孤独で、いじめる側からのＳＯＳを発していた。

心の傷は、体にできた傷みたいに見た目では分からない。だからこそ、他人にはその痛みは理解してもらえないことがほとんどだ。私の周りには、いじめはない。しかし、もしかしたら、私が気付いていないだけで、実際にはいじめがあるのかもしれない。意外と今、目の前で話しをして笑っている人が実は、死にたいと思うほど、いじめに悩んでいたりするのかもしれない。

友人との距離の取り方は、難しい。一緒にいることは楽しいけれど、ずっとつながりっぱなしだと、疲れてしまう。どれぐらいが一緒にいたいと思うかは、一人一人違う。だから、誤解やすれ違いが起きて、二人の関係が悪くなってしまい、修復不能にまでなってしまう。ラジオから流れてきた南ちゃんの

「一緒の時間も大事だけど、お互いの一人の時間も尊重したい。相手を気づかうことが友情だと思いますよ。友情は、信頼を育てあうものだと思います。監視しあい、支配しあうものではないはずです。」

という言葉に、そうだよね！と、とても共感できた。幸いにして、今の私の友人関係は、バランスが取れている。周りに気を使うこともあるけれど、自分の存在も大事にできている。

晴香はどうだろう？晴香の家の中に晴香の居場所がなくなっていた。晴香の存在は、母親にも否定されている。そんな晴香にとって、海の存在は救いになったのではないか。海になら、本当の自分を理解してもらえると思っていたのかもしれない。海となら、信頼できる親友になれるかもと期待を抱いていたのではないだろうか。でも、誤解が生じ、お互いがお互いを追い込むことになってしまった。

いじめは決してなくならない。しかし、減らす努力はできると思う。そのためにも親だけではなく、周りの大人の支えは、必要不可欠だと思う。

私は、将来、子供達と関わる仕事に就きたいと思っている。子供達のＳＯＳにできる限り気付き、悩みが解決するまでその子のそばに寄り添ってあげたい。また、子供達が「私は一人ではない。私を気にかけてくれる人がたくさんいる」ことに気づき、将来の夢に希望が持てるようにサポートしてあげられたら素晴らしいと思う。この私の思いが悩める誰かにきっと届くと信じて。私自身も将来への希望を持ちながら、成長していきたい。そして、南ちゃんのような優しく温かい心を持った大人になりたい。

（図書名『きっときみに届くと信じて』）

〈講　評〉

貴葉さんは、この本を読み、晴香のように「いじめる側も悩みを抱えて生きていることもあるのだ」と知り、自分を見つめ、南ちゃんのラジオからの言葉に共感し、いじめについて自分の考えを述べています。

この本から学んだことを将来に生かそうとする決意は立派です。ぜひ、希望の実現に向けて頑張って下さい。素晴らしい感想文です。

中学生になってからも、良い本との出会いを大切にして下さい。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（低学年）

おねえちゃんって

宮古市立田老第三小学校　二年
佐々木　都愛

いくらココちゃんの体が小さくて、妹の方が大きいからって、妹用におくられてきたふくを、しかも同い年のいとこがきられなくなったふくを

「ココちゃんにいいんじゃない。」

なんてひどいよ。おねえちゃんとしてのプライドがきずつくよ。そうじゃなくても、ココちゃんはおねえちゃんとして、妹のためにいっぱいいっぱいがまんしてるのに。おねえちゃんは年上なんだから、妹よりは少しだけえらいはず。学校で勉強もしているから妹より色んなこと知ってるし、一人でできることだってたくさん。でも、家の中ではそんなのだれもみとめてくれない。なんだか、妹の方がえらいみたいにあつかわれる。ココちゃんもわたしも同じだね。

わたしもおねえさんになったんだ。きょ年妹が生まれてね。それまではココちゃんと同じようにお母さんはわたしだけのものだった。でも、妹が生まれてからそうじゃなくなって、しかられることが多くなっちゃった。たまに、妹がいない方がよかったかな、なんて思うこともあったりするよ。

こんなふうに考えると、妹ってめんどうくさい。でもね、ココちゃんとナッちゃんが家出したとき、ココちゃんは妹が泣かないようにがんばったよね。そして、ナッちゃんもおねえちゃんのためにビスケットを分けてくれたよね。こうやって二人の気もちがよりそえたから、二人ともえがおになったんだよね。きっとココちゃんの口にビスケットが入ったとき、おなかと心がポンッてふくれて

「帰ろっか。」

ってすなおなことばがココちゃんから出たんだね。やっぱり、きょうだいっていいよね。おねえちゃんってつらいことが多いけど、ささえあえるもん。わたしもココちゃんにまけないすてきなおねえさんをめざそーっと。

（図書名『おねえちゃんって、ほーんとつらい！』）

〈講　評〉

都愛さんの文章は、本を読んで感じたことや自分の気持ちを、すなおな言葉で書いています。自分の気持ちをこのように文章に表すことができることは、素晴らしいなあと感心しました。

おねえちゃんって、つらいことが多いですね。でも、うれしいことも多いのかもしれませんね。「やっぱり、きょうだいっていいよね」がすてきな言葉ですね。都愛さんも、ココちゃんに負けないくらい、すてきなおねえさんになってくださいね。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（中学年）

一つの夢に向かい

盛岡市立高松小学校　三年
田中銀次郎

谷口君は中学校野球部のキャプテンです。目標が高く、仲間のほとんどが、「絶対にできないよ。」と思っていても、谷口君だけは、毎日努力すれば、自分たちも勝てると信じて、毎日、毎日、こつこつと練習していくことがえらいなと思いました。

この物語のテーマを考えてみました。それは「夢」だと思います。今のレベルでは絶対にたっせいできないような目標だからです。その野球部では、「体力がまだついていない一年生は、秋の大会までしあいに出場させない。」という伝とうがありました。でも、三年生もかなわないような実力を持つ一年生が入学してきて、谷口君は迷いました。伝とうを守っていくか、それとも試合に勝つためにその一年生を出場させるか、そして一年生を出場させるために、だれをメンバーからはずすか、すぐにはきめられないと思います。

それでも谷口君は二年生の丸井君を外し、一年生のいがらし君をメンバーに入れました。本当は丸井君にも出場してほしい気持ちもあったけど、チームが勝つという目標のために、しなくてはいけないことを選んだんだと思います。外された丸井君もつらかったけど、きめたキャプテンの谷口君もつらかったと思います。

外された丸井君は野球部をやめようと思ったけど、谷口君がいつもの練習以上のもう練習をしているのを知り、「自分は今まで何をやっていたんだ。追いぬかれたら、また追いぬけばいいじゃないか。」と考えました。谷口君の努力する気持ちがチームを団結させていったんだと思います。ぼくだったら、何かがんばろうと思っても、すぐにやめてしまうので、毎日、努力を積み重ねていくことが、大切なんだなと思いました。

チームのみんなが練習に取り組み、チームプレイもしっかりできるように練習に練習を重ね、みんなの気持ちもまとめていきました。かんぺきの体せいで試合に向かおうとしていて、目標へのとても強い気持ちを感じました。

試合が始まりました。相手も強ごうチームで、苦しい試合でした。谷口君はけがをおしてさいごまで投げ続けました。さいごまであきらめずに全力でプレイする気持ちの表れかなと思いました。

試合は負けてしまったけど、谷口君は

「やれるだけのことはやったんだ。みんなにはまだ次がある。それに向かってがんばればいいんだ。」

と、前向きな言葉を言いました。いつでも、努力し続けることが、何より大切なんだと思いました。ぼくも野球をしています。谷口君たちのように、こつこつと積み重ねて、少しずつ成長していきたいです。

（図書名『キャプテン』）

〈講　評〉

キャプテン谷口君のひたむきさや努力している姿、そして、迷っている姿をまっすぐに受け止めながら読んだことが伝わってきます。人物がつらい決断をする場面では、気持ちを豊かに想像し、銀次郎さんも一緒に悩みながら読み進めたことでしょう。「夢」に向かって前向きな気持ちをもつことや、努力し続けることの大切さを学んだ銀次郎さん。野球への思いをさらに強くして、新たな一歩を踏み出すことができたのではないでしょうか。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（高学年）

自分の実力を知り、ライバル心を燃やす

盛岡市立桜城小学校　五年
高脇麻央（たかわきまひろ）

私は、二学期、総合の学習や国語の学習で先人や偉人について学び、業績や生い立ちが書かれた本をたくさん読みました。どの人もたくさんの苦労があり、それをのりこえて、人々の役に立つことを成しとげていると思いました。今回この「栗山魂」という本を手にした時、日本の野球界に大きく業績を残し今も日本ハムの監督として活躍している栗山さんにとても興味をもち、ぜひどんな人生をおくった人なのか読んでみたいと思いました。

栗山さんは高校生になるまでは、学校や幼稚園の生徒の中で運動は上位の実力で野球チームではエースを任されていたほど、運動なら何でも出来る人という立場にいました。けれど高校、大学に進むと、自分の実力は上ではないのだと知ることになります。私は、つい最近、栗山さんと同じような経験をしました。私は、金管バンドクラブをやっています。三年生の一月から習い始めて、二年目となります。五年生になり、むずかしいジャズの曲もふけるようになったり、周りの人からも、うまくなったことをほめられることがあり自信につながりました。しかし、ジュニアバンドフェスティバルという市内のすいそう楽の演奏会に出てみると、自分達よりうまい学校がたくさんあり、もっと練習してうまくなりたいなと思いました。

この本には、栗山さんが考えている言葉が多く出てきます。なるほどと思う言葉は数多くあるけれど、その中には自分とはちがう意見がありました。栗山さんは「自分より上のレベルの選手と比べるから自分にダメ出しばかりしてしまうんだ。そうではなくて昨日の自分と今日の自分を比べればいいんだ。」と意見を述べています。けれど私の考えは違います。今の私が思うには、自分よりレベルが上の人と比べるのは良い事だと思います。なぜなら「あのひとに負けてしまった。悔しい。次は絶対勝つ。負けないぞ！」とライバル心を燃やす事で、自分が負けないように必死に努力すると思うからです。そうする事で成長できるのではないかと思いました。

私はこの本を読んで、上には上がいると意識しておきながらライバル心を燃やす、この二つの事が両立できる人はすばらしいなと思いました。なぜなら、この二つは、正反対だからです。上には上がいると意識していたら私は全然だめなんだと落ち込む人が多いでしょう。一方、ライバル心を燃やしている人は自分の実力がどのぐらいか、相手とはどのぐらい差があるのかなど、中には分かっていない人もいるでしょう。「〇〇君に勝てた！うれしい。でも私はもっとがんばらないと。」と思えるのが理想です。これから私はいろいろな人と出会い小さいめあてや大きな目標をもって生きていくことと思います。あきらめそうな時には、この本を思い出して、自分を勇気づけていきたいと思います。

（図書名『栗山魂』）

〈講　評〉

自分の思いを自分の言葉で素直に書いてあり、好感の持てる感想文です。この本を読み、作者の考えに共感しつつもその中に自分と違う意見があり、それについて自分の意見を堂々と述べている姿はさすがです。

ただ、前段の書き出し部分やこの本を読もうとした動機など、特に取り上げて書く必要があったのか疑問です。一番心に残ったことを中心にした感想の展開が大事です。

審査を終えて

第六十八回冬休み良書推薦運動読書感想文コンクールには、県内の小学校から二百十一名（低学年百一名、中学年四十七名、高学年六十三名）の応募がありました。昨年度よりも多くの応募があったこと、嬉しく思っています。また、夏のコンクールと連続して応募している児童もおり、素晴らしいなと感心しています。お忙しい中、ご指導された先生方とご協力いただいているご家族の皆様に感謝いたします。ありがとうございます。

さて、私たち審査員は皆さんの作品を読むことをとても楽しみにしています。同じ本を読んでいますから、本を楽しんで読んでくれたことが伝わる感想文に出会うと嬉しくなるのです。さらに、その人にしか書けないようなきらりと光る個性、登場人物に共感的に読んでいる書きぶり、本を通して学んだことや心の変化などが、分かりやすい組み立てで書かれていると、世界に一つしかない特別な虹色の花を見つけたような気持ちになります。

では、どのようにしたら素敵な感想文の花が咲くのでしょう。審査で話し合ったことを元にお伝えします。

作品を読むと、どの作品にも花の元になる素敵な芽がたくさんあることに気が付きます。本との出会い、主人公を心配したり応援したりする言葉、時にはライバルとして読んでいる姿も見えてきます。新しい発見、「この本は裏面までおもしろいよ。」と書いてあって、もう一度本をみたくなる、そんな一言まであります。驚くのは、本と同じような体験をしていることが書かれている時です。より共感的に読める本と出会えることは幸せです。

また、花を咲かせるのにお世話が必要なように、感想文も「どの芽を大きく育てようか。」と何度も読み返すことが大切です。たとえば、本との出合いから書き出している作品が多いのですが、高学年はもっと主題にせまる部分をくわしく書いた方がいい場面もあるようです。低学年でも、「最後の部分をもっと書きたかったのでは。」と感じられる作品がありました。書き出しから結びまでの組み立ては大切です。中学年では、本をシリーズで読んでいて深みが増している作品がありました。やはりしっかり本を読んでいる作品は輝いています。

また、先生や家族と話し合ったりすることもよい栄養になるでしょう。栄養のとりすぎには注意が必要ですが、書き方を教えていただいたり、一緒に体験したりすることは、本を通して交流ができて幸せな時間になると思います。学級賞を受賞した皆さんは、学級の皆で感想を交流し、書き方を学んだことと思います。国語の学習で感想文を作品まで仕上げていくことは簡単ではありません。忙しさの中で個々に向き合う厳しさも知っていますので本当に素晴らしいなと思います。

これからも、皆さんが自分にぴったりな本に出合えるよう願って審査講評を終わります。

審査員　畠山 明美